

こころ育てる絵本との出会い

まがちゃん通信

2015 12 - 2016 1 vol. **35**

絵本原画展 青山 友美

特集 手づくり絵本
コンクール



絵本作家インタビュー

あ お や ま と も み
青山 友美



ふんわりと思いを込めて、
穏やかな幸福感に
包まれるような
絵本を描きたい。

青山 友美 (あおやま ともみ) プロフィール

兵庫県神戸市生まれ。大阪デザイナー専門学校卒業後、
四日市メリーゴーランド主催の絵本塾で学ぶ。
絵本の作品に『キャンプ! キャンプ! キャンプ!』(文研出版)、
『えんぎもん』(風濤社)、『せつぶんのひのおにいっか』(講談社)、
『たかこ』(清水真裕・文/童心社)、『ぼくのしんせき』(岩崎書店)、
『うみのいえのなつやすみ』(偕成社)、
読み物の挿絵に『ならくんとかまくらくん』(村上しいこ・文/文研出版)などがある。
神戸市在住。

* 青山友美ホームページ * <http://yotsubaya.petit.cc/>

絵本原画展開催

平成27年11月28日(土)～平成28年1月31日(日)

原画展示絵本

『たかこ』
(清水真裕/文 童心社)
転校生の「たかこ」は、ちよつと
変わった女の子。おひなさまみ
たいな着物を着て、昔風の言葉
を話す。気の強さのせいで、みん
なからいじわるをされるようにな
ったけど...



冬のギャラリーでは、百人一首の絵札から飛び出してきたような女の子が主人公の『たかこ』と、新年に読みたい『えんぎもん』の2冊をご紹介します。

青山 友美先生に インタビューー



絵本作家になられたきっかけは？

「絵」を描くことが好きで、将来は「絵」を描く仕事に就きたいと思っていました。ただ、具体的な職業は思い描けていませんでした。そんな時、本屋さんでスズキコージさんの『やまのデイスコ』を見つけ、「絵本作家」という職業があることを知りました。それから十数年という月日が流れましたが、東京での個展をきっかけにデビューできました。

画材は何を使っていますか？

絵の具は落ち着いた色味が好きなので、主にターナーアクリルガッシュ「和」シリーズです。紙は丈夫なのでワトソン紙の厚口を、筆は水彩筆です。

今回、絵本原画展を行う絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

「たかこ」

清水真裕さんの大事なデビュー作品なので、責任を感じました。十二単のつくりや配色など、京都まで見に行ったり、資料を調べた

り、その時はもの凄く詳しくなりましたが、今はほとんど忘れてしまいました。

『えんぎもん』

日本に数多くある縁起物はどれもかわいらしく、これらを描くのはとても楽しかったです。呪文は最後の最後まで悩みました。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象

深い絵本は？

『ぼくのしんせき』です。他の作品は編集者さんからのざっくりとしたテーマがありましたが、これは自分から提案して作った作品です。最初は「いとこ」の話でしたが、最終的になぜか「しんせき」になってしまい、相関図を考えるのが大変でした。

絵本をお作りになる時のこだわりは？

押しつけがましい内容にならないよう気を付けています。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

通して…というのはないです。作品によって私が感じたこと（＝伝えたいこと）をふんわりと描いていますので、自由に感じてもらえればと思います。

今後どのような絵本を描いていきますか？

穏やかな幸福感に包まれるような絵本を描きたいです。挿絵では自作では描けないようなものを書いてみたいです。

ご趣味についてお聞かせください。

知らない町や道を歩くことと、写真を撮ることです。

好きな言葉を教えてください。

「せつかくです」です。面倒なことも前向きに考えられるし、そこから何か始まるような《縁》を感じる言葉だからです。

ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

私の作品を読んでくださってありがとうございます。12月には読み物『キナコ』というみく／作 P H P 研究所、来年早々には絵本が出る予定です（今、必死に描いています）。これからも、よろしく願い致します！



青山 友美先生、ありがとうございました！

青山 友美先生サイン入りの 絵本を3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
青山 友美 サイン本プレゼント係
締め切り 平成28年2月10日 消印有効

※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『えんぎもん』
(風濤社)



『えんぎもん』(風濤社)
おじちゃんのおうちは「えんぎものやさん」。招き猫、くまでやふくろう、福助など、めだたいものを売るお店。お客さんは「三三」笑顔になったけれど、ある日、おうちに疫病神がやってきた！



村上 祐喜子
手づくり絵本作家

特集 / 手づくり絵本 コンクール

大島絵本館ならではのコンクール

今夏、久しぶりに「おおしま国際手づくり絵本コンクール」の表彰式に出席しました。画材も大きさも製本方法も異なる多様な受賞作品が、それぞれの輝きをもって展示されていました。

21年前、故郷富山に絵本館ができた喜びで、一回目から応募しました。

でもコンクールと聞いたときは、それぞれの良さがある絵本に順位をつけることは難しいのでは？と正直思いました。特に手づくり絵本は、身近な人に読んでもらいたくつくる絵本。私も我が子の日常を描き、子どもの喜ぶ顔見たさにつくっていたので、比べられるものではないと。

でも、受賞作品の数々を見た時、その思いは一変しました。全国から集まる作品の力は強く、アイデアにあふれ、表現する可能性に挑み、コンクールなればこそそのエネルギーに満ちていました。

刺激を受け毎年応募。五回目に「ハラダさんのハラハラ記念日」で大賞をいただきました。長野オリンピックのあった一九九八年のことです。当時はまだ大人も子どもも一緒のコンクールで、応募数は千点を超えていました。

その後は大人の部と子どもの部に分かれ、年二回のコンクールに。大人の部にはしかけ絵本部門ができ、世界各国から募集する国際コンクールになりました。

初期に特別審査員を務められた絵本作

家のかすや昌弘先生の提案で、大賞受賞者のOBで「大島手づくり絵本倶楽部（OTEC）」を結成し、手づくり絵本を広め、大島絵本館の応援団的存在になろうと活動を始めました。

絵本学会の第二回大会が大島絵本館であり入会。アジア児童文学大会では外国人相手にワークシヨップ。有峰へ二泊三日で自然を体感しながら徹夜で絵本づくり。そして毎年、コンクール入賞入選作品展の頃に同じフロアでOTEC作品展も開催しています。

自然が雄大で美しく、食べ物が美味しい富山の絵本館に行きたい！だからコンクールに応募する。家族で富山旅行を楽しみたいから受賞を目指す。そんな絵本仲間がたくさんいます。

表彰式では最優秀賞受賞作品が映像化して上映されるなど、スタッフの方々のおかげで印象深いコンクールです。絵本館自体もファンタジックで絵本空間を満喫できます。

おおしま国際手づくり絵本コンクールファンが多いのは、こんな魅力があるからではないでしょうか。

人と出会い、ひらめきを共有して表現し絵本に込める。誰もがつくれる手づくり絵本。そのコンクールを通して絵本好きの人々が絵本館に集い、益々活気づくとを願っています。

私のおすすめ絵本

『おかあちゃんがつくった』

長谷川義史／作
講談社

おかあちゃんって迫力あるんです。子どものためならえんやこーら。子どもの心がおいぎばりになっても暴走します。子どものためと思い込んで、でもそこから笑いが！



『オスカーとフー』

テオ／文
マイケル・デュドク・ヴィット／絵
さくま ゆみこ／訳
評論社

ぼんやりオスカーが迷子になって出逢ったステキな友達、雲のフー。雲の友だちっていいなあ。



『ぼっかばか』

諸橋精光／作
小学館

自然体であるがまま。心穏やかに生きる。四季の野山や海と一緒にのんびり歩いている気持ちになれる。



『きつねのおきやくさま』

あまん きみこ／文
二俣英五郎／絵
サンリオ

腹ペコ狐はひよこたちを太らせてから食べようと目論んでいたけれど自分の命をはって皆を助ける。笑みを浮かべながら息をひきとる狐にくぎづけ。



『わたしはあかねこ』

サトシ／作
西村敏雄／絵
文溪堂

まわりとの違いを認め自分の良さを信じて生きるあかねこにカラフルな未来が！自分がイヤになったら読んでほしい絵本。



『なつのいちにち』

はた こうろう／作
備成社

夏のおいしがてくる本。夏の鼓動がきこえてくる本。青い空、緑の風、白い雲…きもちいい！

